

# 審判メカニクスハンドブック

## ジェスチャーの基本【抜粋】

## ジェスチャーの基本

1. 球審の構え方
2. プレイ、タイム
3. ストライク、ボール
4. アウト、セーフボールカウント
5. フェア、ファール
6. マスクの外し方、インジケーターの持ち方
7. 四死球
8. チェックスイング
9. ボーク
10. 塁審の構え方
11. セーフ、オフ・ザ・バック
12. アウト
13. フェア、ファウル
14. キャッチ、ノーキャッチ
15. ライン付近の打球
16. エンタイトル・ツーベース、ホームラン
17. 打撃妨害
18. 故意落球
19. 打者の守備妨害（盗塁のとき）
20. 反則打球
21. 打者走者の守備妨害
22. 走者の守備妨害
23. 走者の追い越し
24. オブストラクション (a) 項
25. オブストラクション (b) 項
26. インフィールドフライ
27. ラインアウト
28. タイムプレイ
29. 観衆の妨害

## 1、球審の構え方

スロットスタンス:

### 1) 足

捕手の足のかかと／球審の足のつま先／かかと／つま先(Heel／Toe／Heel／Toe)(下図)

かかとからつま先まで地面につける。

両足のスタンスは最低肩幅(ほとんどの場合肩幅以上)。

両足に均等に体重をかける。

スロット足を先に決め、後ろあしは45度まで開く。

(両足のスタンスは自分の一番楽な位置がよい)

### 2) 肩

地面と平行に投手板に正対する。

### 3) あご

地面と平行に捕手の頭頂部の高さに合わせる(下図)。

### 4) 体

やや前方に傾け、頭の高さを決めるのにしたがって腰の位置も決まる。

### 5) 腕と手の位置(①、②のどちらでもよい)

① スロット方向の腕は90度に曲げ、ベルトあたりに止める。もう一方の腕はひざの上部あたりに軽く添える。

② 両前腕を足の内部に入れ、太ももあたりに持ってくる。手は自然に下げるか軽く握る。

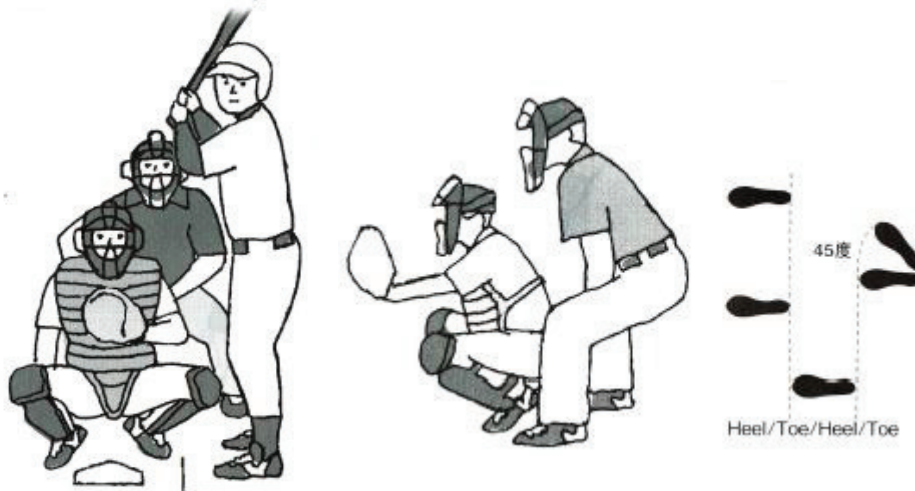
### 【球審の構えの3大ポイント】

スロットフットのつま先が投手板方向に向いているか。

ホームプレートが全部見えているか。(頭の高さ、位置)

構えた姿勢が自分にとって快適か。

On the rubber - Get set - Call the pitch - Relax

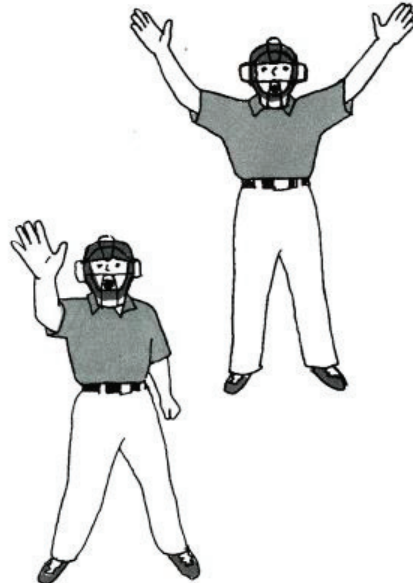


## 2、プレイ、タイム

「プレイ！」



「タイム！」



打者が打撃姿勢をとるまでに上図のシグナルがしばしば用いられる。その後、左図ステップ2に移る。

## 3、ストライク、ボール

- ※ 「ストライク」とコールする。ひじは肩の高さまで上げる。
- ※ ボールは“Get set”の姿勢のままで「ボール」とコールする。ただし動作はない。



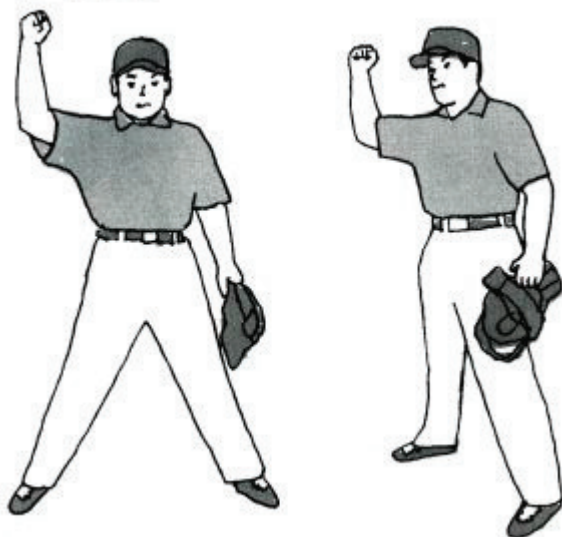
「ストライク！」



“Get set” の姿勢

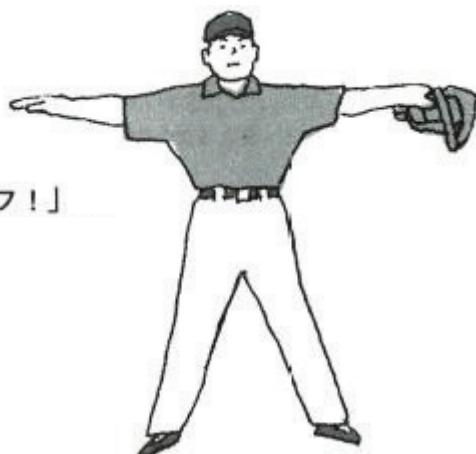
## 4、アウト、セーフ、ボールカウント

「アウト！」



- ※ マスクは常に左手で持つ。
- ※ 右手でコブシを作って、右ひじを肩の高さまで上げる。手は顔の前にある状態となる。

「セーフ！」



- ※ マスクは常に左手で持つ。
- ※ 広げた両腕は地面と水平に。

「ボールカウント！」

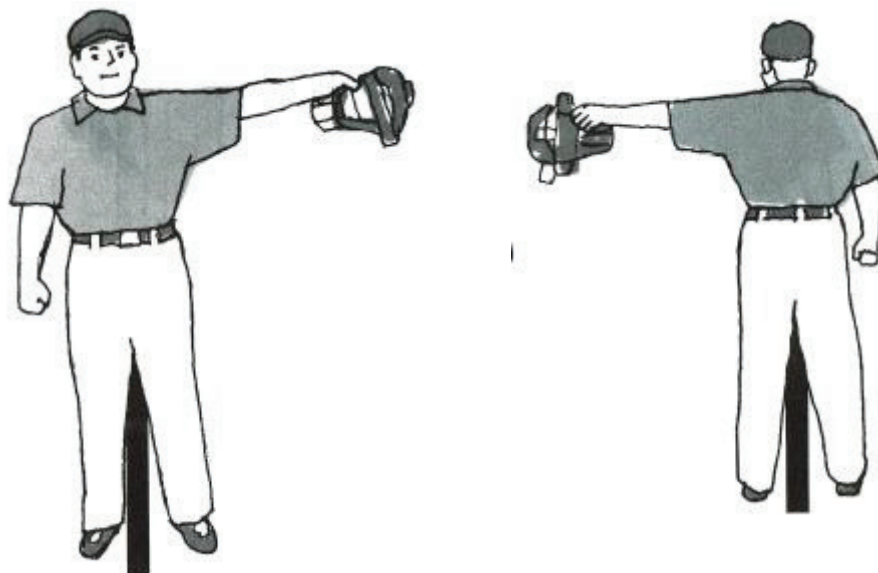


- ※ ボールカウントの示し方に常に指を使う。フルカウントを示すのに、こぶしは使わない。

## 5、フェア、ファウル

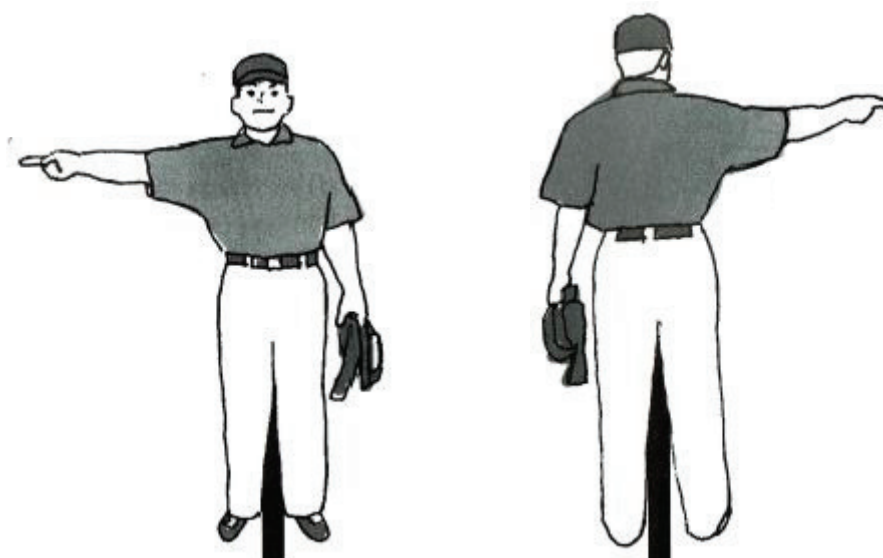
### 「フェア」一塁線の打球の場合(ノーボイス)

- ※ 一塁ベースまでの打球のフェア／ファウルの判定は球審が行う。(ベース付近の打球のとき、野手の打球に触れた時点がベースの前後どちらかが判断しにくい時には、塁審が判定するようにします。)
- ※ 一塁ファウルライン際の打球(フライを含む)は、ラインをまたいでフェア／ファウルの判定を行う。



### 「フェア」三塁線の打球の場合(ノーボイス)

- ※ 三塁ベースまでの打球のフェア／ファウルの判定は球審が行う。(ベース付近の打球のとき、野手の打球に触れた時点がベースの前後どちらかが判断しにくい時には、塁審が判定するようにします。)
- ※ 三塁ファウルライン際の打球(フライを含む)は、ラインをまたいでフェア／ファウルの判定を行う。



## 5、フェア、ファウル

### 「ファウルボール」

マスクを外してコールすることが望ましい。  
フェアかファウルか際どい場合はジェスチャーを大きく。



### ライン際の打球

- ※ まずフェアかファウルの判定を出す。ポイントする。
- ※ ファウルであれば、その後に「ファウルボール！」を宣告する。
- ※ 【キャッチ！】か「ノーキャッチ！」かの打球の場合は、フェアかファウルかのシグナル(ポイント)を出した後、キャッチであれば「キャッチ！」、ノーキャッチであれば「ノーキャッチ！」を宣告する。

## 6、マスクの外し方、インジケータの持ち方

左手でマスクの下部を前に引き、押し上げるようにして外す。

ステップ1



ステップ2



間違ったやり方

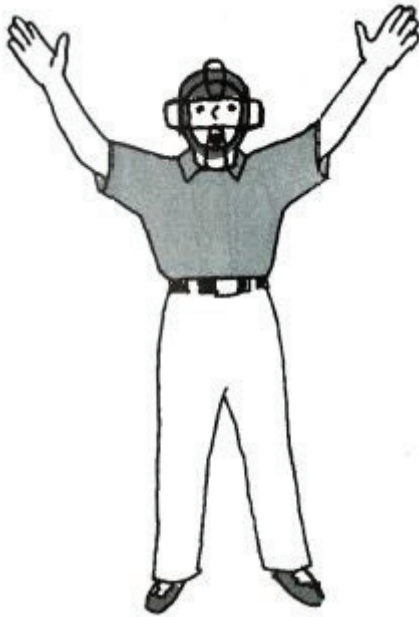


マスクを外すときの  
インジケータの持ち方





## 7、四死球



四球（ベース・オン・ボールズ）の場合  
ことさら動作はしない。

死球（ヒット・バイ・ピッチ）の場合

まず、ボールデッドのジェスチャー（両手を上げる）をして、ヒット・バイ・ピッチを確認して打者を一塁へ。明らかに死球の場合はボールデッドのジェスチャーを省いてもよい（グリップエンドに当たったような場合は、両手を上げた後ファールボールを宣告する）。

## 8、チェックスイング



（一塁塁審を指さして）  
“Did he go?”

1～2歩、一塁塁審の方向に踏み出し、左手で一塁塁審を指さして（または手のひらで）、「Did he go?」「振った?」と塁審に聞く。



三人制のとき  
（中にある塁審を指さして）  
“Did he go?”  
「振った?」

## 8、チェックスイング



(三塁塁審を指さして)

**“Did he go?”**

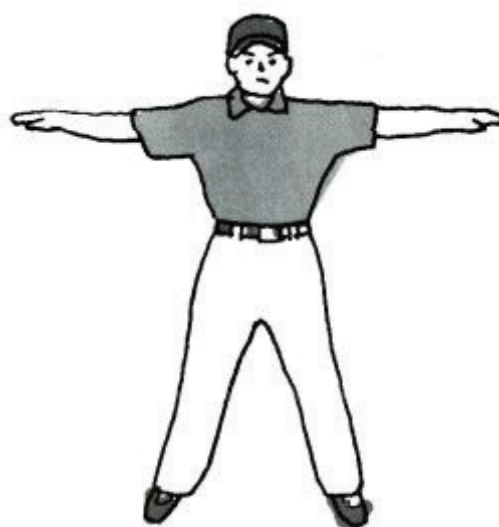
1～2歩、三塁塁審の方向に踏み出し、左手で一塁塁審を指さして（または手のひらで）、「Did he go?」「振った?」と塁審に聞く。



**塁審 振った場合**

アウトと同じジェスチャー

「スイング!」  
“Yes, he went.”



**塁審 振っていない場合**

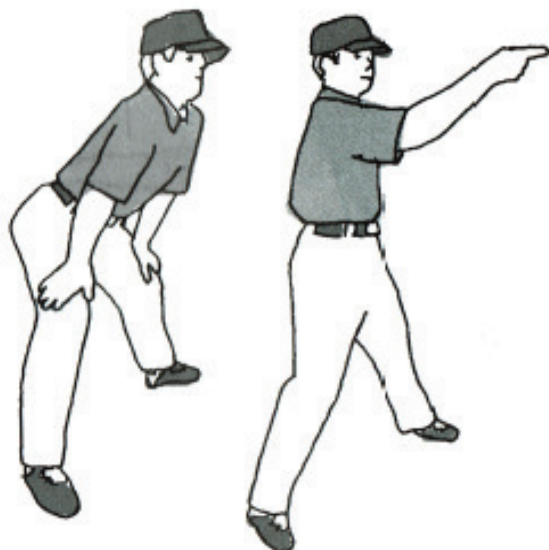
セーフと同じジェスチャー

「ノースイング!」  
“No, he didn't go.”

## 9、ボーク

※球審は「ザッツ・ボーク」と発声するのみで、特に動作はしない。そして、プレイが一段落してからタイムをかけ、ボークの処置をとる。

※塁審は、右手で投手を指さしながら、「ザッツ・ボーク」と発声し、そして、プレイが一段落してからタイムをかけ、ボークの処置をとる。



塁審 「ザッツ・ボーク！」  
“That’s a balk.”



塁審 「タイム！」  
(プレイが一段落するまでタイムをかけないこと)

## 10、塁審の構え方

塁審は、

- 1、一球ごとにセットポジションで構える。  
※ただし走者がいない時は、スタンディング・セットポジション(立ったままの姿勢で、ひざを少し曲げて構える)でもよい。
- 2、プレイの判定のときにはセットポジションで構える。

セットポジションの構え方:

- 1、ひざを軽く曲げる。腰を曲げない。
- 2、両手をひざ又は太ももの上に置く(ハンズ・オン・ニーズ)。両脚の内側に置かない。
- 3、頭を上げる。頭を落とさない。
- 4、ひじをまっすぐに。
- 5、肩の力を抜いて、リラックスして。
- 6、重心は前に置く。機敏に動けるように。

判定の3大ポイント:

- ①判定するときは止まって両ひざに軽く手を置きプレイを見極める。
- ②距離を一步近づくより、一步動いて良い角度をとるように心がける。
- ③いつでも次にどのようなプレイが起きるかを想像しながら行動する。



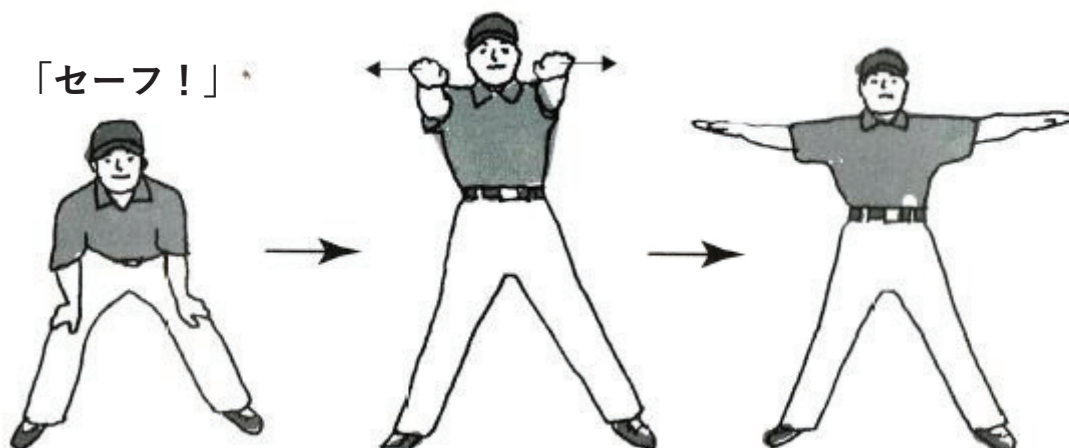
正しい構え方

- ・視野を広く
- ・プレイに正対する



間違った構え方

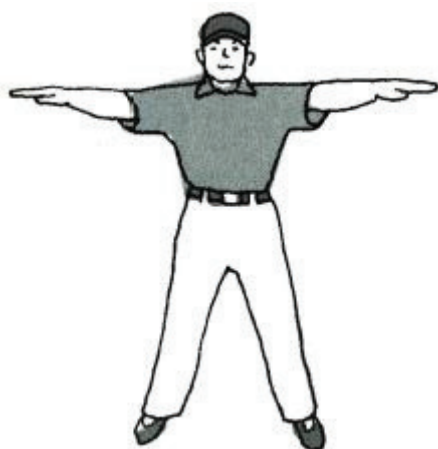
## 11、セーフ、オフ・ザ・バッグ



※野手がボールを落としたとき	Safe! Dropped the ball.
※野手が“お手玉”したとき	Safe! Juggled the ball.
※走者がタッチをかいくぐったとき	Safe! No tag!

タイミングはアウトだが、野手の足がベースから離れた場合

「オフ・ザ・バッグ！」



「セーフ！オフ・ザ・バッグ！」  
“Safe! Off the bag!”

足の離れた方向に  
両腕を振る

